

小型部会

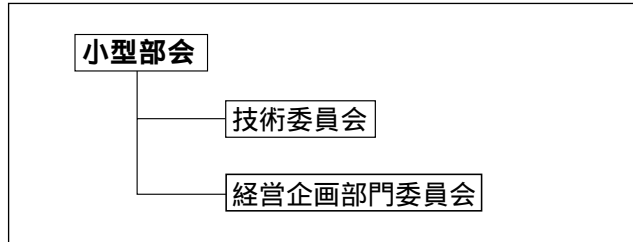
加盟7社で成る部会 環境問題に積極的な取り組み

1. 組織

小型部会は、車両製造メーカー7社が加盟しており、各社の代表から成る部会と、その下部組織として、技術委員会と経営企画部門委員会で構成されています。

加盟7社

- 関東自動車工業株式会社
- 岐阜車体工業株式会社
- セントラル自動車株式会社
- トヨタ車体株式会社
- トヨタ自動車九州株式会社
- 日産車体株式会社
- 光岡自動車株式会社



2. 特徴

型式指定車を生産している車両メーカーの集まりであるため、車体工業会が主要な事業として行っている、保安基準適合および審査といった活動には参加しておらず、他の部会とは異質な面があります。

第4回目は、他部会とは活動、構成などが少し異なる「小型部会」を紹介します。

加盟各社の生産台数合計は、2005年度で185万台（国内生産の17%）を占めており、かなり大きな規模を持っています。

規模の大きさ故、必然的にCO₂排出量に占める小型部会会員各社の比率は車体工業会全体の80%強と多大な影響を持っています。そのため、環境委員会メンバーに各社の環境担当者を登録し、積極的に低減に取り組んでいます。

3. 主な活動

経営者懇談会

各社経営者間の情報交換および、主管官庁との懇談会。

工場見学会

- ・部会会員企業の工場見学を行い、会員相互の理解と親睦を深める。
- ・他部会会員企業の工場見学等を行い、技術交流の促進を図る。
- ・異業種企業を訪問し、幅広い知識の向上を図る。
- ・海外企業の工場見学を行い、グローバル化への理解を深める。

委員会

各社代表委員間の情報交換および小型部会行事の計画。



2005年度は185万台で、1990年（140万台）に比べ32%の増加となっています。

一方、自工会会員の乗用車・トラック国内生産は20%も減少しており、国内生産に占める小型部会会員の生産分担比率は、10%から17%へ大幅に増加しています。

2つめは環境対応型技術開発競争が激化してきていることです。

ガソリン価格の高騰で、ユーザーニーズは低燃費車指向へ明らかに変化してきています。

ガソリン車から本命とされる燃料電池車への移行の過程で、国の政策支援を受けながらさまざまな開発が行われています。燃料の分野でバイオエタノール・GTL・ディーゼル、交通分野ではITSというように各国で開発にしのぎを削っています。

一方、わが国では運輸部門における石油依存度を現在100%であるのを、2030年までに80%まで引き下げることを目標としています。

車体工業会が重点課題として掲げている環境・安全・コンプライアンスについては、どうでしょうか。

まず環境課題（リサイクル・環境負荷物質低減・CO₂削減）については、開発設計段階から使用段階の燃費、排出ガス、騒音、廃棄段階のリサイクル性、環境負荷物質の削減に関する項目の目標を設定し対応しています。

リサイクル法に關した例では、ASR（シュレーダーダスト）については2015年度までにリサイクル率を70%以上にする目標で活動しており、これより廃棄車両のリサイクル率は法施工前の80%程度から95%以上にまでさせる考えです。

環境負荷物質低減では、車体工業会内で削減目標値を論議しておりますが、車体工業会の中でCO₂排出量に占める小型部会会員会社の比重（車体工業会全体排

出量の80%強）が高いため、環境委員会メンバーに各社の環境担当者を登録して、削減に取り組んでいるところでは、

コンプライアンスに関しては、車体工業会全体の重大な問題として不正な2次架装に関する問題があります。これについては、国の認証制度にも改善の余地があるとの意見も聞いていますが、基本的にはメーカーとユーザーがお互いに法の精神を十分考慮した上で、それぞれの責任範囲をきちんと保証することが重要であると思います。

その上で、制度的な改善が必要との合意があれば、車体工業会の総意として関係官庁に働きかけをすることを考えれば良いのではないのでしょうか。

また一部の輸出企業では、中国内での損害補償に関する課題をかかえているようですが、国の主導による両者の話し合いで公正な競争ができるように導いてもらうのが望ましいと思います。

今後の小型部会活動についてお聞かせください。

小型部会は、車体工業会の中である意味で異質な部会だと思っておりますが、自動車産業界の変化を身近にキャッチできる立場にあると思います。従って、さまざまな変化や新しい動きに対し、早い時点で情報発信していきたいと考えます。

また会員相互は、ボデーメーカーとしての共通な悩みや特性のようなものもあり、お互いの共通項については連携を深めており、各メーカーどおしの人間関係は非常にうまくいっています。

今後の部会活動では、これまで先輩の進められてきた実績をベースに、勉強会や見学会を充実し、小型部会を発展させると共に、車体工業会に貢献できるようにしていきたいと思っております。

Profile

- ◆業務歴
 - 1967年 4月 日産自動車(株) 入社
 - 1994年 6月 日産自動車(株)村山工場長 就任
 - 2003年 4月 日産車体(株) 入社
 - 2004年 6月 日産車体(株) 代表取締役社長 就任
- ◆車工会歴
 - 19 年 月 理事 就任
 - 2005年 月 小型部会長 就任
- ◆趣味・嗜好
 - 読書：藤沢周平、池波正太郎の著書
 - お酒：日本酒「男山」
- ◆人物寸評
 - 小柄な身体からあふれてしまいそうほどのエネルギーとシュンな行動力でありながら、常に控えめな態度で相手を立てる優しさを持ち合わせている、お酒（日本酒）好きな道産子です。

部会・委員会紹介/委員長インタビュー

小型部会 高木 茂 部長に聞く (日産車体(株) 代表取締役社長)

最近の小型部会を取り巻く自動車産業の動向についてお聞かせください。

1つはグローバル化の進展があげられます。

2005年度 日本メーカーの自動車生産は、国内生産1089万台、海外生産1093万台となり、海外生産が初め

変化や新しい動きをいち早く捉え 情報発信していきたい

て国内生産を上回りました。

小型部会会員各社も国内の生産分担にとどまらず、メーカーの海外進出に対しては車両開発・生産準備・生産面とさまざまな形で技術支援を行っています。

ちなみに小型部会会員の乗用車・商用車の生産は、